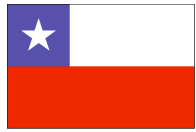


COUNTRY RISK WEEKLY BULLETIN

09 December 2009

IN THE HEADLINES



チリ

大統領選は 13 日の日曜日に実施される。現職大統領のバチェレ氏の人気にもかかわらず、野党右派の候補者(「革命に向けた連合」)セバスティアン・ピニェラ氏が、元大統領で与党コンセルタシオンのエドゥアルド・フレイ氏の先を行っている。3 番目の候補者、無所属のマルコ・エンリケ・オミナミ氏も支持を高めているため、ピニェラ氏とフレイ氏の間での決選投票が 1 月 17 日に実施される予定である。ここでピニェラ氏は勝利することが見込まれ、それによって 20 年余りにわたる中道-左派の支配は終わることだろう。フレイ氏の父親(元大統領)がピノチェト政権に関わっていた人物によって毒殺されたという裁判官の判決が、選挙に顕著な影響を与えるかどうかについては選挙結果を見る必要がある。



ルーマニア

現職パセスク大統領は 6 日、日曜日の決選投票で、50.3%の得票で当選した。対立候補であったジョアナ氏(49.7%の得票)はこの結果について、憲法裁判所に對し、投票所での不正の疑惑を理由に正式に異議を唱えている。この接戦のために、10 月に政府が崩壊したときから続いている政治的な膠着状態が更に長引くことが見込まれよう。次期大統領の主要な任務は新しい首相を任命することにある。パセスク氏は今のところ旧民主党以外からの候補者の任命を拒否しているが、この民主党(民主自由党)は現在議会においては決然とした反対勢力に直面している。この政治的な麻痺状態が、IMF の支援を中断させる理由となっている。



ボリビア

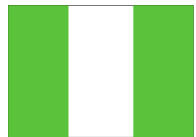
先週日曜日(6 日)の大統領選の暫定的な結果によればエヴォ・モラレス大統領が、圧倒的な差で(得票率 63%は次点候補より 36 ポイント上回るものだった)更なる任期を勝ち得たと見える。同氏の所属する社会主義運動党(MAS)も上下両院で過半数を得た。この状況を更なる任期の延長を可能とするための憲法改正に使うか、あるいは現憲法でもそもそも任期の延長は可能だという解釈を行う、という、他の極左の指導者に見られた行動に出るかは今後の動向を見守るしかない。いずれにしても、こうしたはっきりとした権限を持ったことにより、大統領はその極左のアジェンダ強化・発展させていくだろうが、同国の深刻な社会的・地域的な分断の問題は未解決のままである。



トルコ

フィッチは同国の長期ソブリン格付を 2 ノッチ引き上げて BB-から BB+とし、その理由として、世界的な金融危機に対する相対的な耐性と、インフレ及び対外資金調達リスクの低下をあげた。深刻な景気低迷に陥っているもの-2009 年の実質 GDP は 6%程度縮小すると見込まれる-国際収支危機、ないしは国内金融危機は今のところ避けられている。インフレ率は、10 月には記録的に低い、前年同期比 5.1%まで落ち着いたが、11 月には同 5.5%まで再度上昇した。マイナス面としては、財政状況は悪化した。財政刺激策が 2009 年の財政赤字を GDP 比 7.5%、2010 年には 6%とするだろう。更に、対外資金調達必要総額は 2010 年には USD1,200 億ドル程度と高いものになるだろう。

ALSO IMPORTANT...



ナイジェリア

ウマル・ヤラドゥア大統領は治療のためにサウジアラビアに移送されたが、その理由は、心臓周辺の激しい炎症ということである。同氏の健康問題はここところ注目されていたが、同氏が不在の現状下、野党及び与党の一部からも、退任要請が上がってきている。ナイジェリアはアフリカ大陸で最大の人口を抱え、アフリカの主要なエネルギー生産国でもあるため、政治的な不透明感により大きな影響を与えよう。大統領の交替可能性にむけ、支持率を高めておくための政治的な駆引きが増えそうである。そしてこうした状況が政策実施の流れを中断させるだろう。また、2010 年は政治的に課題の多い年となるだろう。



ギニア

国家指導者ムサ・ダディ・カマラ氏が緊急治療のためモロッコに移送された理由は、大統領付き武官であるトゥンバ・ディアキテ氏によって頭部を射撃されたためらしい。ディアキテ氏は 9 月にデモ運動に對し発砲した治安部隊を主導したとされており、この鎮圧行動は国際的な非難を受け、今後も国際刑事裁判所における裁判が行われる可能性も残っている。ギニアは既に、昨年 12 月のクーデターの後に選挙を行うという約束を巡視しなかったことによりアフリカ連合および西アフリカ諸国経済共同体より制裁の対象となっている。政治環境ははずみ、世界で 2 番目のボーキサイト生産者にとり、貿易条件は不透明になるだろう。

COUNTRY REVIEW SUMMARIES



フィリピン

第 3 四半期の実質 GDP は前四半期比 1%増と、第 2 四半期の同 1.7%を下回ったが(この水準も 2.4%から下方修正されたもの)、これは 9 月の強い台風による影響も一部受けたものであった。前年同期比ベースでは、第 3 四半期に経済は 0.8%伸び、これは第 2 四半期と同程度の伸びであった(やはり 1.5%から下方修正されたもの)。11 月のインフレ率は 6 ヶ月来の水準で前年同期比 2.8%まで上昇したが、これは嵐により農業生産量が落ち込み、食料価格を押し上げたためである。とはいえ全般的には同国経済は世界的な経済危機に對して予想外の耐性を見せ、景気低迷に陥っていない。安定した出稼ぎ送金が経常収支を黒字に保ち、フィリピンペソ/米ドル為替レートの水準を意外なほど安定させている。



マラウイ

ビング・ワ・ムタリカ大統領および与党民主進歩党(DPP)は 2009 年 5 月の選挙において明確に更新された権限を勝ち得たため、政策実行は速度を増すと思われるものの、政治的に不安定な状況は残るとされる。南アフリカが最大の貿易相手国だが、中国が徐々に重要な資金調達相手国となってきている。対外債務削減の実施にもかかわらず、当該経済は援助頼りであり、IMF およびその他ドナー社会も協力的である。適度な雨量と記録的なタバコ収穫により、2008 年の GDP 成長率は 10%であった。2009 年には 7-8%程度となる見込みであり、カヤレケラ鉱山からのウラン輸出が開始されれば、2010 年には 5-7%となるだろう。

IN BRIEF

ギリシア

フィッチは BBB+(見通しネガティブ)に引下げた。

Edited by Andrew Atkinson

The content of the report (which is subject to change without notice) reflects only our opinion, which is based on information received by us. Accordingly no warranty, representation or other assurance is given as to the accuracy or completeness of the report. The report is for general information and is not intended to address any requirements you may have, for which you must obtain independent advice. The report does not constitute any form of advice, recommendation or arrangement by Euler Hermes UK plc or by the Euler Hermes Group of Companies and must not be relied upon in the making of any decision, agreement or arrangement. © Euler Hermes UK plc 2008.